

「 命を守る 」

鹿児島県 霧島市立国分南小学校 4年 臼井 瑛葉

みなさんは命について考えたことはありますか。わたしは、考えたことはありませんでした。明日が当たり前にくると思っていた。

1993年8月6日。鹿児島を中心に雨がふり続き土砂くずれが多発的に起こりました。そのひ害は「86水害」という名前がつれられました。わたしは、86水害をテレビで見た時、しょうげきを受けました。「死者120名、行方不明者1名」わたしが生まれる前にこんなすごいさい害があったのだとこわくなりました。山がくずれ、その下にある家がつぶれたり道路が川のようになったりしているえいぞうを見ました。もし、道路が川みたいになったらわたしは、息ができなくなるだろうと思いました。親からはなれた子供や高れい者はどうやってひなん所に行ったのかなと思いました。

「雨はこわいなあ」と思っていると、8月8日に鹿児島県大雨けいほうが出ました。しきねの方は、川の水があふれて車が半分水につかっていた。ナフコの近くで土砂くずれが起きていました。テレビに「南小近く土砂くずれ」と何度も何度も出ました。しきねの方に友達の家がたくさんあるので友達は大丈夫なのかとても心配になりました。

夜もかみなりがひどかったので、こわくてあまりねむれませんでした。朝、起きてニュースを見たらこわくなりました。家から見える大きな山は、上の方からくずれていました。あんな大きな山がくずれるのだと初めて知りました。鹿児島の道路は、かん水が29か所、土砂くずれが21か所でした。ニュースでは、かん水した道路に生きた魚がいて、海の生き物たちもたくさん死んだのかもしれないとかわいそうになりました。

人が乗ったまま、水につかってしまった車から、無事にきゅうしつできたとニュースに出ました。命が助かってよかったとほっとしました。もし、小さい子や高れい者だったらとても危ないと思いました。わたしだったら、おぼれてしまうところになりました。おばあちゃんがすんでいる宮崎や昨年、大じしんがあった石川や富山など、いろいろな地いきでも道路がかん水したニュースが出ました。日本中でこんなことがおきるなんて、こわくて、外に出たくなくなりました。

土砂くずれや大雨でのひ害は、生まれて初めてでした。ひなんしないといけないのか、ひなんしないでいいのか分からなかったです。こんな時、すぐくまようことが分かりました。雨がふり続けば、人の命やすむ家、食べ物などいっしゅんでうばってしまうことを知りました。植物にとってはめぐみの雨ですが、自然の力はとても強いことが分かりました。わたしは、もっと防災について家族と考えていきたいと思いました。